

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関などの連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人教育や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	理 事	小田 佐衣子
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人教育の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H30年度末現在の施策の主な課題		
	生涯学習推進体制の推進については、きらめき講座等を開催し、本市と包括連携協定を締結する市内大学との連携講座の拡充により、大学連携講座の受講者数は大幅に増加しました。また、生涯学習で培ったスキルを社会に還元する仕組み作りとして、「出番づくり」相談会を実施したことを通じて、一定の成果が上がっています。 生涯学習についての普及啓発の推進については、各課の講座等も含めた生涯学習情報誌「Next Stage」を紙媒体及びHPにて、生涯学習情報を発信しました。また出前講座の受講者数は年々増加し、平成29年度は減少したものの、市民ニーズに対応した講座内容にしたことから、平成30年度大幅に増加し、一定の成果が上がっています。 成人教育の推進については、市民が自主的・主体的な学習活動や社会参加を支援するために、社会教育関係団体等リーダー研修会等の様々な講座を開催し、毎年度事業見直しを行いました。 公民館活動の推進については、公民館講座受講人数及び講座等開講数は、ピーク時から比較すると、年々減少傾向にはありますが、地域住民のニーズに対応した講座等を実施し、住民の主体的な学習活動を支援しました。 図書館サービスの充実については、継続して、資料・情報の収集・整理・保存・提供に努めるとともに、より多くの市民が本との出会う機会を創出するため、「ブックラベル」や「図書館を使いこなそう講座」を開催しました。また、子どもの読書活動推進については、各学校と情報交換を行うなど子どもが読書に親しむ環境づくりに努め、「茨木市 図書館を使った調べる学習コンクール」を学校と連携して開催し、調べ学習を通して多様な資料の活用を図る取組を行いました。 以上から、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	更なる生涯学習施策の推進に向けて、市民アンケート調査の結果等に基づいた(仮称)生涯学習推進計画の策定、また当該計画の推進を行う必要があります。	
			課題②	更なる生涯学習の普及啓発の推進のため、ホームページやSNS等を活用した情報発信が必要です。	
			課題③	成人教育の推進については、社会の要請を踏まえた講座を実施するとともに、より多くの市民が参加できるよう事業周知方法を検討する必要があります。	
			課題④	公民館活動の推進に向けて、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みについて、更なる情報提供・共有に努め、32公民館の取組を支援する必要があります。	
			課題⑤	更なる図書館サービスの充実については、関係機関との連携し新たな事業展開、また情報化時代におけるICTの活用等を検討する必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	本市の生涯学習活動の実態及びニーズを把握するために、市民ニーズ調査を実施しました。また、包括連携協定を締結している市内4大学と新たに近隣大学との連携事業を拡充し、参加者数が大幅に増加し、企業との連携事業においても「社会人として身につけたいスキル講座」を拡充するなど、生涯学習の機会を提供することができました。 更には、昨年度に引き続き、個人がスキルアップしたものを地域など社会に還元する『出番づくり』相談会を実施し、学習成果を生かす仕組みづくりを進めています。 天文観覧室では、大阪北部地震や台風の影響で投影機や機器類を含む施設全体に甚大な被害があり、集客率の大きいシーズンに閉館を余儀なくされたため入場者数が大幅に減少しました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		大学連携講座受講者数	人	↗	903	2,082	1,000(R1)
天文観覧室(プラネタリウム)利用者数	人	↗	12,898	8,429	14,500(R1)		

1	取組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	昨年度に引き続き、各課の講座等も含めた生涯学習情報誌「Next Stage」を紙媒体とホームページでも発信し、また、ホームページのリニューアル等、より多くの市民が生涯学習機会の情報を得ることができるよう努めました。 そして、出前講座の受講者数が、市民ニーズに合った講座の実施により、前年度と比較し大幅に増加するなど、市政情報が提供できました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		出前講座受講者数	人	↗	70,916	94,140	80,000(R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する			

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-3	成人教育の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名 松本 栄子	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するため、社会教育関係団体等リーダー研修会や青年による人権啓発事業について、地域社会との連帯を図り、社会の要請を踏まえた講座内容の選定、開催時期の再検討等により、効果的な事業実施に努めました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		成人教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,002	1,023	1,040 (R1)

1	取組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名 松本 栄子	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	公民館講座受講人数、講座等開講数は減少しましたが、地域住民のニーズに対応した各種講座等を実施し、住民の主体的な学習活動を支援しました。 また、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みとして、子ども読書活動推進計画に基づく読み聞かせ、地域の歴史などの実施が増加するとともに、中央公民館として、取り組みの目的を説明し、事例紹介するなど、更なる情報共有を図ることが出来ました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		小学校区公民館講座受講者数	人	↗	2,533	2,459	2,550 (R1)

小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	438	424	420 (R1)
講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みによるもの	講座等	↗	49	53	50 (R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	6月の大阪北部地震の影響により、一時期休館し、貸出点数が減少しましたが、継続して、資料・情報の収集・整理・保存・提供に努めました。 また、本を介したイベント「ブックトラベル」や、「図書館を使いこなそう講座」の開催などで、市民が本と出会う機会を創出し、読書推進、図書館の利用促進を図りました。 子どもの読書活動推進については、各学校と情報交換を行うなど子どもが読書に親しむ環境づくりに努めるとともに、「茨木市 図書館を使った調べる学習コンクール」を学校と連携して開催し、調べ学習を通して多様な資料の活用を図る取組を行いました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		資料貸出点数	点	↗	3,843,809	3,653,098	3,850,000 (R1)
蔵書冊数(書架容量等に応じた適切な蔵書構成)	冊	→	1,255,632	1,269,845	1,250,000 (R1)		

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいつくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。また、本市のスポーツ推進に関する取組の基本となる計画を策定します。地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	小田 佐衣子
		施策主担当課	市民文化部	スポーツ推進課	—
		施策関係課			
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進		
		3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H30年度末現在の施策の主な課題			
2	平成27年度にスポーツ推進計画を策定し、平成28年度以降、計画に基づき施策を進めてきました。 子どもが多種競技のスポーツを体験できる「キッズスポーツデー」や「かけっこ教室」を29年度から実施し、これらのイベントにより、延べ年間1,000人以上の子どものスポーツ体験を提供できました。 高齢者・障害者が施設を利用しやすいように、トイレの洋式化を進めており、平成30年度に福井運動広場へ多目的トイレを設置しました。 また、平成29年度からボッチャの大会を関係団体と協力して開催し、障害のある人とない人が一緒にスポーツに取り組むことができました。 スポーツ指導者の資質向上のため、講習会を実施し、場所をローズWAMに変更したり、回数を増やし、平成27年には82名の参加者が平成30年度には197人の参加がありました。 少子高齢化が進展する中で、子どもから高齢者まで、多様な世代が健康で豊かな人生を送るため、スポーツへの関心が高まっており、2020年には東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることなどを背景に、ますますその傾向は強まっていくものと考えられます。 平成30年度には、東京2020オリンピックのホストタウンとしてホッケーオーストラリア代表チームを招いての交流試合やイベントを実施し、世界のトップレベルのプレーを茨木市内で観戦することができ、スポーツの魅力を発信するとともに、気運の向上を図ることができました。 この機会を逃さずに、より多くの人々がスポーツを楽しむことができるよう、市民がスポーツに取り組むきっかけ作りや、スポーツをすることができる環境の整備など、施策の方向性に沿った取組みが順調に進められていると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	スポーツに関心を持ち、スポーツに取り組む市民が増えるよう、一層の情報発信に取り組む必要があります。	
			課題②	子どもの好奇心をひきつけるスポーツ体験の取組みが必要です。	
			課題③	高齢者・障害者のスポーツへの参加機会の充実を図るとともに、取り組みやすい環境の整備に努める必要があります。	
			課題④	スポーツ関係団体の連携を図る必要があります。	
			課題⑤	スポーツ指導者の資質の向上に取り組む必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西 勝二
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	地震などの影響により、スポーツ大会参加者数は減ったものの、これまでに引き続き、市や総合型地域スポーツクラブが実施するスポーツ教室・サークル活動のほか、障害者スポーツに対する取り組みなど、スポーツ推進計画に基づき、市民の健康増進・生きがいづくりにつながる生涯スポーツを推進しました。 また、東京2020オリンピックのホストタウンとしてホッケーオーストラリア女子代表チームを招いての交流試合やイベントを実施し、スポーツに対する気運の向上を図ることができました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		各市民体育館稼働率	%	→	82.9	86	83(R1)
市民プール利用者数(夏期を除く)	人	→	122,509	126,442	130,000(R1)		
市と市内の競技団体の共催によるスポーツ大会参加者数	人	↗	13,206	12,419	14,000(R1)		

1	取組	3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西 勝二
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	高齢化の進展に伴い、健康志向が高まっており、スポーツを身近なものとして、多くの市民が気軽に参加できる環境が求められています。 その環境づくりの一環として、これまでに引き続き、総合型地域スポーツクラブの周知を図るとともに、スポーツ教室の種目や対象を拡充することで、災害の影響でスポーツ施設が使えない期間があったにもかかわらず、総合型地域スポーツクラブの会員数は若干の減少に抑えられ、スポーツ指導者講習・研修会の参加者数を増やすことができました。				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		総合型地域スポーツクラブの会員数	人	↗	1,568	1,552	1,700(R1)
スポーツ指導者講習・研修会参加者数	人	→	169	197	130(R1)		

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	理 事	小田 佐衣子
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-3-1	市民との協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	★歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H30年度末現在の施策の主な課題		
	市民との協働による文化のまちづくりを進めるため、「HUB-IBARAKI ART PROJECT」において、多様な主体で構成する実行委員会に加えて、民間事業所との連携により事業を推進しました。 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりとして、さまざまなイベントを開催し、多くの市民が文化芸術に触れることができました。JR総持寺駅アートプロジェクトでは、現代アートを身近に感じてもらう機会を提供しました。市民会館跡地エリア活用については、ヒアリングや社会実験などを通して得られた意見に基づき、施設機能や事業の進め方等について取りまとめた基本計画を策定しました。 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成として、未就学児や小学生対象の芸術文化講座や放課後子ども教室と連携した「こども能楽ワークショップ」を実施し、多くの児童が参加しました。 歴史遺産の保存・継承については、府や市の有形文化財等に指定されたキリシタン遺物の高精度複製品を製作し、企画展やシンポジウムをとおして市民に公開しました。歴史的建造物(寺社)調査は概ね本調査を終え、報告書の作成を進めています。埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、優品の速報展を開催しました。 郷土への愛着心とブランド形成として、川端康成文学館では生誕月記念企画展の開催やツイッターによる広報を強化し、年間入場者が増加しました。また、川端康成青春文学賞を創設し、「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRにつなげました。以上から、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	文化芸術における協働推進の核となる人材の育成には継続した取り組みが必要です。	
			課題②	市民総合センターの老朽化が進んでおり、計画的に予防保全を行う必要があります。	
			課題③	若い世代が文化芸術に触れることができる環境のさらなる充実が必要です。	
			課題④	文化財所有者には文化財保護の取組に対する理解を、歴史的建造物調査では所有者や地元の方々に、事業への理解・協力をしていただけるよう働きかける必要があります。史跡郡山宿本陣保存修理は、所有者と調整を図りながら進める必要があります。	
			課題⑤	川端康成ゆかりのまちであることを市内外に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			

3 施策内の取組の評価

★：重点プラン該当取組

1	取組	3-3-1 市民との協働による文化のまちづくり					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる市民との協働や文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	「HUB-IBARAKI ART PROJECT」では、市内3大学の学識経験者や観光協会などまちづくりを担う団体から推薦された方で実行委員会を構成し、プロジェクトの内容やイベントについて、様々な意見・アドバイスを受け、事業を推進しました。 facebook、TwitterなどのSNSを活用し、文化振興事業を積極的に投稿したことにより、昨年度を上回る好意的な評価を受けるなど、市内外に向けたPRに努めました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		市立ギャラリー稼働率	%	→	86	92	100(R1)
SNS記事の好意的な評価数	件	↗	2,635	2,641	3,000(R1)		
提案公募型公益活動支援事業補助採択件数	件	↗	6	6	8(R1)		

1	取組	3-3-2 ★文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課	中央図書館、市民会館跡地活用推進課					
4	目標 (前期基本計画より)	市内には文化芸術活動を行うことができる「場」として、文化施設等が数多くあり、音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えています。さらなる文化振興のためには、鑑賞や発表の機会の充実のため、施設整備を行い、鑑賞や実践の機会を設ける必要があります。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容 イベント開催等により、気軽に文化芸術に触れる場づくり				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、適宜、文化施設等の修繕等を行い、鑑賞や発表の機会を確保しました。 市立ギャラリーには32,297人の入場が、また、文化振興イベントには災害等の要因により昨年度を下回ったものの15,702人の参加があり、多くの市民が文化芸術に触れることができました。 「まちなかアートツアー」をJR総持寺駅アートプロジェクトやスポーツ推進課と連携して実施することで芸術作品を身近に感じてもらう機会を提供しました。 市民会館跡地エリア活用については、ヒアリングや社会実験などを通して得られた意見に基づき、施設機能や事業の進め方等について取りまとめた基本計画を策定しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		市立ギャラリー入場者数	人	→	30,990	32,297	39,000(R1)
文化振興イベント参加者数	人	↗	17,066	15,702	21,000(R1)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-3 ★未来へ向けた文化芸術の担い手の育成					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	辻田 新一
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っていきます。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	若手芸術家の育成・活動環境の形成			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	市民自らがさまざまな文化芸術活動に取り組み、定期的な公演や大会などに参加しました。また、小学生対象の芸術文化講座について、対象を未就学児と保護者にも拡大するほか、放課後子ども教室と連携した「こども能楽ワークショップ」を実施するなど、若い世代が芸術文化に触れる場をつくりました。さらに、川端康成文学館俳句コンクールでは、1,463件の学生応募がありました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	902	1,463	1,200(R1)
こども対象の芸術文化講座 参加者数	人	↗	73	118	75(R1)		

1	取組	3-3-4 ★歴史遺産の保存・継承					
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	木下 典子
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	貴重な文化財の市への移管促進			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	キリシタン遺物「キリスト磔刑像」の高精度複製品を製作しました。また、キリシタン遺物史料館企画展として千提寺菱ヶ谷遺跡等をテーマに開催しシンポジウムを実施しました。本市の歴史的建造物(寺社)調査を実施し、神社については調査が完了し、寺院についても概ね調査を終え、報告書の作成も進めています。埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しており、優品の速報展を開催しました。大阪北部地震等で破損した史跡郡山宿本陣の保存修理に向け取り組みました。				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	2,256	3,789	2,500(R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 辻田 新一	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	<p>“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木市らしさ”を大切にす る気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されて います。</p>					
5	該当する 重点プラン (前期基本 計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末 現在の取組 の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>川端康成文学館では生誕月記念企画展を実施するなど、茨木市における文化の特色として 川端康成ゆかりの地であることを周知しました。企画展の内容を充実させるとともに、若年層への 広報をより強化したことなどから、年間入場者が平成29年度の9,768人から10,388人に増加しま した。一方で、猛暑の影響等により、夏休み企画展の入場者は、平成29年度の1,588人から 1,191人に減少しました。 また、川端康成青春文学賞を創設し、短編小説を全国から募集した結果、1,341篇の応募があ り、「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRにつなげました。</p>				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす 方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	9,768	10,388	10,000(R1)
川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	1,588	1,191	1,800(R1)		

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	徳永 嘉朗
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	—
		施策関係課	まち魅力発信課、北部整備推進課		
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-4-1	★観光資源の発掘とネットワーク化の推進		
		3-4-2	観光情報の発信を強化		
		3-4-3	★官民協働で観光事業を推進		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	H30年度末現在の施策の主な課題			
		課題①	ターゲットを意識して、コンテンツを工夫するなど、幅広い世代に対して、実際の来訪や回遊を促進する手法を検討することが必要です。		
		課題②	情報発信手段が多様化していることから、関係機関との連携や各ターゲットに向けた有効な媒体を活用し、タイムリーな情報発信を行うことが重要です。		
		課題③	観光振興による集客を、地域のにぎわいや経済の活性化につなげる必要があります。		
		課題④			
		課題⑤			

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-1 ★観光資源の発掘とネットワーク化の推進					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永嘉朗	
3	関係課	北部整備推進課、まち魅力発信課					
4	目標 (前期基本計画より)	市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	既存観光資源のネットワーク化と新しい資源の創出			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ	阪急観光あるきや、観光協会主催の観光ウォークにおいて、隠れキリシタンや安威神社の蹴鞠等、本市の主要スポットを巡るコースを設定し、市内外からの参加者にその魅力や歴史をPRしました。観光あるきは、設定や広報等を例年と同様に行ったが、3月実施の元茨木川緑地コースの参加者が減少しました。 北部地域については、市街地における「いばきたマルシェ」の積極的な展開や、地域と連携した「いばきたフォトサイクリング」の実施など、魅力発信や「山とまちをつなぐ」取組に努めました。				
			参考指標	単位	めざす方向性	実績値	
					H29年度	H30年度	
		「阪急京都沿線観光あるき」参加者数	人	↗	82	38	80(R2)
		「いばらき観光ウォーク」参加者数	人	↗	418	395	600(R1)

1	取組	3-4-2 観光情報の発信を強化					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永嘉朗	
3	関係課	北部整備推進課、まち魅力発信課					
4	目標 (前期基本計画より)	積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ	本市ホームページやSNS、広報誌の活用のほか、観光協会と連携したマップの配付や主要駅での情報発信など市内外へのPRに取り組みました。 また、スタンプラリー等の企画を活用し、市内スポットの魅力発信に努めました。				
			参考指標	単位	めざす方向性	実績値	
					H29年度	H30年度	
		観光情報の発信に取り組んだ媒体の数	種類	↗	11	11	14(R1)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりをすすめる

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-4-3 ★官民協働で観光事業を推進					
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 徳永嘉朗	
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	②魅力と活力のあふれるまちをつくる (文化・観光による魅力向上)	内容	イベントなど官民協働での観光まちづくり			
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>台風により途中中止となったが、市民や学生等を主体とする「茨木フェスティバル」や、新たな体制で趣旨や内容の見直しを行ったイルミネーション事業「いばらきイルミフェスタ灯」などのイベントを、民間団体と協働で実施しました。</p> <p>また、民間団体主催のイベントを支援し、定着している大規模イベントに加えて、「IBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL」のような新たなイベントも実施され、まちのにぎわい創出につながりました。</p>				
		a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
	主要観光イベントの集客数	人	→	258,000	92,100	253,000(R1)	

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる		
3	施策の方向性 (前期基本計画より)	国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、さまざまな分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。			
4	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	理 事	小田 佐衣子
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
	施策関係課				
5	施策内の取組 (★:重点プラン該当取組)	3-5-1	都市間交流の促進		
		3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備		

2 H30年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
評価理由(H30年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		H30年度末現在の施策の主な課題			
2	都市間交流の促進については、国内姉妹都市等の宿泊施設利用補助制度利用者数及び小豆島オーリーブマロン申込者数は、度重なる自然災害の影響により昨年度を下回りましたが、若い世代の参加が見られるなど、多世代における、姉妹都市等交流が継続されています。平成27年度からの利用についても、多少の増減はあるものの、多くの利用や参加があり、姉妹都市等交流が継続されています。 また、国外姉妹都市については、ミネアポリス市からの市民訪問団の受入れや「ミネアポリス体験ツアー」の実施により、交流を図ることができました。 地域国際化推進について、「国際交流の集い」参加者数は昨年を下回りましたが、通訳ボランティア派遣数は地震時の相談対応や支援情報の翻訳が望まれたこと、制度の周知により10件から83件へと大幅に増加しています。また、市内在住外国人等とのふれあい交流を開催し、市民と市内在住外国人の交流を図ることができました。 平成27年度の「国際交流の集い」参加者数は272人であることから、少しずつ市民と市内在住外国人の交流が拡大し、現在まで継続しています。 また、茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動である実用日本語学習会などを支援するなど、在住外国人の生活環境の向上に努めました。 以上から、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	都市間の交流について、多様な交流機会を提供し、多くの市民に関心を持っていただく必要があります。	
			課題②	日本語が得意でない市民に対する言語面での支援が十分ではなく、取り組みを進める必要があります。	
			課題③		
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化をすすめる			

3 施策内の取組の評価

★:重点プラン該当取組

1	取組	3-5-1 都市間交流の促進					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 辻田 新一	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、さまざまな「つながり」が生まれています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹都市等と子どもの絵画・書の交換事業や市民訪問団の派遣等の交流事業を実施しました。小豆島オーリーブマラソン申込者については、訪問団への申込者数は減少していますが、若い年代の参加が見られるなど、多世代にわたる交流が継続しています。</p> <p>宿泊補助制度利用者数は、台風等の自然災害の影響により、昨年度を下回りましたが、川端康成についての学習のため、本市を訪れた竹田市中学生の受入など、文化面の交流を深めることができました。</p>				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市)	人	↗	444	402	500(R1)
小豆島オーリーブマラソン申込者数	人	↗	53	45	60(R1)		

1	取組	3-5-2 地域国際化を推進するための環境整備					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 辻田 新一	
3	関係課						
4	目標 (前期基本計画より)	市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。					
5	該当する重点プラン (前期基本計画より)	該当なし	内容				
6	H30年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由 (H30年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>通訳(翻訳)ボランティア派遣件数が前年度より大幅に増加しました。地震時の相談対応や支援情報の翻訳が増加した要因の1つですが、制度の周知も進み、通常の利用件数も増加しています。</p> <p>そのほか茨木市国際親善都市協会と連携し、在住外国人に日本語を教えるボランティア活動、市民と在住外国人・留学生との交流イベントの実施、留学生のホームビジットの受入れ等の事業を進めました。交流イベントである「国際交流の集い」の参加者数は、若干減少していますが、様々な団体の参画により、目標値に達しており、異文化交流を深めることができました。</p>				
			a:順調に進行 b:おおむね順調に進行 c:進行にやや遅れ d:進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					H29年度	H30年度	
		国際交流の集い参加者数	人	→	340	324	300(R1)
通訳(翻訳)ボランティア派遣	件	↗	10	83	35(R1)		